

日本語・韓国語・中国語の漢語語彙について

文 慶 詰*

A trial of KANGO WORD Analysis in Japanese, Korean, and Chinese

MOON Kyungchol

1. はじめに

日本語と韓国語、日本語と中国語、また韓国語と中国語はどんな関係にあるのか。この三つの言語の共通点と相違点は何なのか。言語交流の長い歴史を持ちながら、言語研究の各分野である、音声、音韻、文字表記、語彙、文法などになると、この三つの言語の間にはかなりの違いがある。

典型的には、中国語は孤立語に属し、日本語と韓国語は膠着言語に属する。中国語は、「語」が中心で、その「語」は不変化であるか、あるいは不変化語になろうとする傾向がある。「語」と「字」は、ほとんど同一概念であり、語順によって文法性を表す傾向がある。これに対して日本語と韓国語は、膠着言語であり、膠着言語は、文法上の関係を示すために語幹の後に異なった接辞を加えることを構造的特徴とする。文法的特徴を示す語順の面においては、中国語は英語のように主語の後に動詞が先に来て、最後に目的語が来る。日本語と韓国語は主語の後に目的語が先に来て、一番最後に動詞が来る。日本語、韓国語、中国語の語順を示すと、次のようになる。

中国語 (英語) ; SVO 型

日本語 韓国語 ; SOV 型

(S は主語、V は動詞、O は目的語)

日本語と韓国語は、このように文法的な面においては非常に近い関係にある。その共通点をまとめてみると、次のようになる。

① 語順が SOV 型である

* 東北文化学園大学講師 Lecturer of Tohoku Bunka Gakuen Univ.

e-mail: kyungchol@nifty.com

- ② 活用をする
- ③ 助詞がある（テニヲハ）
- ④ 語種に漢語と固有語がある

これに対して、相違点としては、

- ① 文字体系が違う
- ② 漢語の発音がそれぞれ違う

などがある。

以上の点と中国語を比べてみると、中国語は語順、活用、助詞という点で日本語、韓国語とは大きく異なる（現代中国語においては、助詞が一部使われているが、基本的には存在しない）。しかし、中国語と日本語、韓国語の間には文法的な面で相違点が多いにも係わらず語彙的には漢語を使うという大きな共通点がある。本稿では、日本語の漢語語彙と韓国語、中国語との比較を通して、その交流関係を探る。

2. 日本語における漢語の受容

日本語の文字体系は勿論、語彙においても大きく変わる転機は、漢字の受容である。漢字がいつ頃日本に伝わってきたのかは、諸説があり、はっきりとはわからない。しかし、2～3世紀の遺跡からの出土品に漢字が刻まれていることから、この時代以前にはすでに日本に伝わった可能性が非常に高い。ただ、その時代において文字としての意識があったかどうかは明らかではない。「語」としての繋がりもなく、意味も不明であることから、最初は記号、あるいは飾りとして受け入れたのではないかと考えられる。この文字の伝来が、中国から直接つたわってきたか、あるいは朝鮮半島を経てきたかも容易には判断できないが、多分朝鮮半島からの渡来人によってもたらしたのではないかという説が有力である。その後、確認できる最初の記録は『日本書紀』と『古事記』における王仁博士（百済には、すでに「博士制度があった」との記録がある。五つの種類と見られる「五経博士」制度である。これが事実であれば、「博士」という語は百済からはじまる事になる。）の記事である。応神天皇十五年に、百済から王仁博士が『論語』、『千字文』などを持ってきたと記されている。五世紀始めの頃、中国の經典や典籍が朝鮮半島を経由して、日本に伝来することになる。

漢字の伝来によって、日本語も大きく変わり、漢字によって表記するようになる。最初は、固有名詞の音仮名から始まり、だんだん漢文に広がったと思われる。

これが日本語と韓国語、中国語における漢語の共有の理由であるが、その後も長いあいだ言語交流、接触によって共通語彙が増加するようになる。

また、漢字の起源は、中国から始まったが、漢字がそれぞれの言語体系の中で、新しく作り出されることもあった。固有語の音をあらわすため、あるいは新しい語の必要性によって独自の漢字を作る必要が生じたからである。韓国語においては、「ハングル」が作られる以前に際立ち（ハングル以前は「吏読」という日本の万葉仮名のような表記があった）、日本語においては、独自の漢字を国字と呼ぶ。中国においても、外来語の増加によって、新しい漢字を作ったり、近代になってからは極端に簡略化した簡体字が生まれる。

日本語；杜、雫、辻、働、峠、鯛、畠、凧、桃、碇、榎、驒 etc

日本の略字

韓国語；石+乙、老+乙、水+田 etc

中国語；上+下（上と下をくっ付けて「カード」のカに当てる）

このほか、旧体字の偏や旁などだけをとって作った現代中国語の簡体字

以上のように、字体の違いはあっても、日、韓、中の言語における共通語彙は数え切れないほど多く見られる。漢字で表記した場合に、日、韓、中、どの言語話者もその意味が把握できるということである。

漢字、文字、成功、敬愛、年齢、風雨、雑誌、政治、経済、社会、生活、農村、文化 etc

このような共通語彙がある反面、現代語において同じ漢語でも意味が変化したり、新しい意味が生まれたりもする。あるいは表記が違う語も現われてくる。

3. 日本語と中国語の間の漢語語彙

漢語語彙は、日本でも、中国でも何となく通じると思う人が多い。しかし、次のことを考えてみたい。

“中国には「駅」がない。「駅」には「汽車」がない。”

勿論、中国にも「駅」と「汽車」はある。「駅」と「汽車」がないというのは、日本語での意味からのことである。中国では「駅」は、「站」というし、「汽車」は、車のことをいう。中国語では、次のようになる。

“「站」に「火車」が停まっている。（駅に汽車が停まっている）”

ここで日本語の漢語と中国の漢語には、どのような違いがあるのか、検証してみる。

①表記自体が違う場合

「漢語」は何かを定義するのは難しい問題である。ただし、本稿では、日、韓、中の漢語を比較するために、漢字で表記されるすべての語彙を漢語として扱う。

日本語と中国語の漢語がまったく違う場合は、次のような例がある。

月曜日；星期一	火曜日；星期二	水曜日；星期三	木曜日；星期四
金曜日；星期五	土曜日；星期六	日曜日；星期天	
一日；一天	二日；二天	三日；三天	四日；四天
			五日；五天 etc
一時；一点	二時；二点	三時；三点	四時；四点
			五時；五点 etc
新聞；報	手紙；信	汽車；火車	野球；棒球
駅；站	会社；公	司	切手；郵票 etc

②表記は同じでも、意味が違う場合

歴史的に遡ると、おなじ意味に使われた可能性はあるが、ここでは現在使われている主な意味用法として考える。

走；歩く	汽車；車	湯；スープ	娘；お母さん	愛人；配偶者
工作；仕事	出口；輸出する	手紙；トイレットペーパー	東西；品物	
丈夫；旦那 etc				

③ 表記も、意味も同じ場合

古くからの言語接触（借用）による、もっとも多い例である。

幾何、	経済、	哲学、	倫理学、	大学、	国語、	熱帯、	銀行、
化学、	数学、	公園、	電池、	文学、	自由、	資本、	議会、
義務、	留学生、	社会、	電話、	革命、	美術、	概念	etc

4. 漢語語彙は全部中国で作られたのか

3の③のように、日本語と中国語のあいだには、意味、表記が同じ語彙が数多く存在する。しかし、このような語彙の中には、中国から渡ってきたものだけでなく、日本で作られた和製漢語で、逆に日本から中国に輸出したものも多い。和製漢語の多くは、「翻訳語」が占めている。勿論、「翻訳語」だけではなく、和語そのものが中国語のなかに入り漢語になったケースもある。

「場合」 「取消」 「手続」 「出口」(「出るところ」としての意味) etc

日本で翻訳語を作る場合には、まったく新しい「新造語」の方法もあるが、中国の古典から引用して、別の意味として再生した「再生」の方法が多くとられていた。

「翻訳語の作り方」

㊤新造語；「化学」 「自由」 「銀行」 「社会」 「哲学」

㊦再生；「経済」 「大学」 「文学」 「形而上学」

「経済」は、中国では政治的概念だったのが、「economy」の翻訳語になり、中国に戻って、今は政治と対立する概念として定着している。

「economy」；「経済」(經世済民)

ただし、翻訳語すべてが日本でつくられたのではなく、近代に中国で作られ日本に渡ってきたものもある。「幾何学」がそのいい例である。

「Geometry」；幾何学

翻訳語を作るときに中国では、音訳するのが一般的で、この「幾何学」が音訳の方法をとっている。「幾何」は中国語音で「ジホ」と発音するが、原語の「Geometry」の「geo (ジホ)」の部分だけをとって翻訳したのである。この方法はふるくからあって、お経の翻訳や外来語、特に人名、地名などに多く使われていた。

「English」；「英語」(「英」は、中国語音で「イン」となる)

「coffee」；「珈琲」

「romantics」；「浪漫」

また、翻訳語の場合、西洋からきた宣教師によって作られたのも多い。例えば、蘭学者によって作られたと思われていた「病院」は、宣教師アレニの『職方外記』(1623 年)のなかに見えることから、宣教師による翻訳だったことが明らかになった。

近代における、日中言語交流の主役は、当時中国からきた留学生である。清朝政府は多くの留学生を日本と欧米に派遣するが、もっとも多かったのが日本であった。彼らが大量の翻訳語を持ち帰り、中国語のなかに流し込んだのである。しかし、この中には和製漢語だと思い込んでいた語のうち、実は中国で作られたものもある。宣教師達と中国の一部知識人達が協力して作った翻訳語が、中国ではあまり流行らなく、むしろ日本で花を咲くこ

とになる。西洋文明に好奇心旺盛だった蘭学者達が、その語を受け入れ広く活用し、それが中国からの留学生の手に入るのである。この語が留学生達の帰国によって中国語の中にはいり、定着するのである。

日本語と中国語の漢語の関係をまとめると、次のようになる。

- ① 中国から日本に輸出した漢語
- ② 日本から中国に輸出した漢語
- ③ 中国で作られた漢語を日本の蘭学者が作り直し、また中国に輸出した漢語

5. 日本語と韓国語の間の漢語

日本語と韓国語の漢語語彙を比べてみると、「日本語と中国語」よりも「日本語と韓国語」の方が共通語彙が多い。これは、韓国が近代に日本から多くの漢語を受け入れるからである。このなかには、和製漢語もあるが、和語までが漢語として韓国語のなかに入り込むことになる。

勿論、韓国語は中国語との長い交流があったので、日本語と中国語が違う漢語において、中国語と韓国語が共通している漢語は、表1のようになる。

表1

日本語	韓国語	中国語
手紙	便紙	便紙
部屋	房	房
切手	郵票	郵票
米国	美国	美国

数量単位においても、日本語のビール「一本」、「二本」に対して、韓国語と中国語は、「一瓶」、「二瓶」と数える。

表2

	日本語	韓国語	中国語
ビール	本	瓶	瓶
紙	枚	張	張
階層	階	層	層
(*例外) 酒	杯	盞	杯

韓国語の漢語語彙は、日本語と共通しているのと、中国語と共通しているのがあるが、

以上のような例を除いては、日本語の漢語に近い。日本の漢語が韓国語に入るのは、近代になってから目立つが、次の様な理由がある。日本語を翻訳するときに、和語であっても、仮名は捨て、漢音だけをとれば、そのまま通じるからである。近代の学問、科学技術と共に大量の漢語が日本語から借用することになる。

日本語の漢語と韓国語の漢語を比べてみると、次の様な特徴が見られる。

①日本語の漢語の語順と逆になる場合

語順の場合、音読みと訓読みの定着の過程で生じたずれによるものと考えられる。つまり、漢文の語順で定着したか、それぞれの固有語の語順で定着したかによる違いである。

表 3

韓国語	日本語
威脅	脅威
約婚	婚約
胆大	大胆
賢母良妻	良妻賢母
物品	品物
換乗	乗換
過食	食過ぎ
過飲	飲過ぎ

②複合動詞などの和語が韓国語に入って、漢語化した場合

表 4

日本語	韓国語
追い越す	追越 (hada)
貸し出す	貸出 (hada)
支払う	支払 (hada)
取り下げる	取下 (hada)
取り扱う	取扱 (hada)
取り消す	取消 (hada)
払い下げる	払下 (hada)
引き上げる	引上 (hada)
引き揚げる	引揚 (hada)

引き受ける	引受 (hada)
引き下げる	引下 (hada)
組み合わせる	組合 (hada)
* (hada) は、韓国語で「する」という意味	

動詞だけでなく、名詞においても同様である。

表5

取り締まり役	取締役(chicheyek)
引き換え券	引換券(inhuankuen)
不渡り	不渡(budo)
見積り	見積(geanzeak)
手続き	手続(susok)

表4、表5のような純粋な和語が、韓国語においてはすべて漢語扱いになり、音読みとなる。動詞の場合、和語の漢字表記だけをとって、「する (hada)」をつけ、まるで漢語動詞のように使われている。そのため、次の様な不都合が起きる。韓国語においては、「組合」も「組合」(韓国語読みで (chohap)、「組み合わせ」も「組合」(chohap)になる。このような背景を知らない今の韓国の人は、「同音異義語」と考えがちで、伝統的な漢語語彙と思う人が多い。

表6

日本語	韓国語
組み合わせ	組合 (zohap)
組み合わせ	組合 (zohap)

韓国語における和製漢語の導入は、かならずしも学問、専門用語だけでなく、生活全般において広く浸透している。独立後、韓国語から日本語を追放する運動が何回もあり、明らかな日本語(和語)は減ったが、このような漢語は依然として残っている。日本語としての意識が薄れ、漢語のような意識が強いからだと思われる。

6. 日本語、韓国語、中国語の漢語の比較

①漢語表記は同じでも、意味が大きく異なる場合

以下は、現代語における主な意味用法を比較したものである。最初は同じ意味用法として使われた語も時代によって変化し、いまのような意味になったと思われる。またこ

ここでは、現代語における主な意味用法で比較する。

表 7

言語 語彙	日本語	韓国語	中国語
湯	加熱され、温度の高くなった水	具の多いスープのよ うな料理。 あるいはお風呂	主に、スープ 吸い物
床	家の中で、板を張っ て畳などを敷く所	机、または食事をす るための移動式食卓	ベット 寝台
愛人	情夫、情婦 婚外の恋人 (婚外の関係)	結婚するために恋愛 関係にある人 (結婚前の関係)	配偶者 夫、家内 (結婚後の関係)
工夫	よい方法、結果を見 いだそうとして、い ろいろ考えをめぐら すこと。またその考 えついた良い方法	勉強、勉強する	(費やされる) 時 間、あるいは暇
人事	(官庁や会社など で) その成員の採用、 退職や身分、勤務に 関する事柄	(官庁や会社など で) その成員の採用、 退職や身分、勤務に 関する事柄の意味も あるが、一般的には、 挨拶の意味	世間の出来事
大丈夫	何かに対処できる条 件十分で、危険や万 が一の心配がない様 子	堂々としている男 ますらお	夫
先生	国会議員、医者など に対する敬称	学校の教師	～様 男性に対する敬称

②同じ意味の語が、漢語表記がそれぞれ違う場合

表8

日本語	韓国語	中国語
勉強	工夫	学習
本	冊	書
医者 *医師	医師	医生、大夫

このように、語の表記が異なる場合であるが、数量単位名詞をつけると、もっと面白い現象が現れる。「本」は中国語で「書」となるが、「書」は「一本」、「二本」と数える。韓国語で「本」は、「冊」数えるが、日本語の「本」は「一冊」、「二冊」と数える。

表9

日本語	「本」の数量単位；「冊」
中国語	「書」の数量単位；「本」
韓国語	「冊」の数量単位；「卷」

7. これからの課題

いままで日本語と韓国語、中国語の漢語を比較し、その共通点と相違点という面から、漢語の受容と伝播について探ってみた。中国の漢語が韓国と日本に渡り、定着する過程で、二通りが考えられる。一つは、中国語の語順通り定着したものであり、もう一つは、韓国語、日本語の語順に変えられ、定着したものである。

- ① 本来の中国語の語順で定着した漢語
- ② 韓国語、日本語の語順に変えられ定着した漢語

漢字は中国で作られ、朝鮮半島を経て日本に伝わってくるが、近代になってから日本で新しく作られた大量の和製漢語が韓国と中国に再び渡り、大きな影響を与えることになる。和製漢語の中国への流入は、1896年から渡ってくる留学生および戊戌変法の失敗で日本に亡命した梁啓超らによると言われている。韓国語においても、近代に入ってから、教育制度と共に、流入される。

日本語と韓国語、中国語は長いあいだ言語交流が盛んに行なわれ、大きく影響を受けたり、与えたりする関係であったことがわかる。言語交流は、文化交流は勿論、学問と科学技術の発展にも繋がる。

漢字は、造語力が豊富で、大きな生産力を持っている。新しい語彙を効率よく作れるのは勿論、略語など簡単な形にすることが可能である。それだけでなく、いまの情報化の時代においては、漢字の視覚的効果など、情報伝達力にも優れている。

従来、漢字の欠点として指摘されていた「教育を受けていない人には難しい」、「機械化が難しい」という問題は、教育の普及と機械の発達によって解決されつつある。

いままでの背景から、日本語と韓国語、中国語のあいだに、漢字、漢語の統一化ができれば、情報の共有、あるいは円滑な情報のやり取りが可能ではないか。

特に、韓国は表記のハングル化が進み、漢字が読めない人が増えている。表記のハングル化によって、同音異義語の区別の難しさは勿論、漢語本来の意味が曖昧になり、国語の退化にもつながる恐れがある。このような例のなかには、純粋な漢語だけでなく、日本語にも当てはまる。韓国人の中には、「無鉄砲」が韓国固有語だと思っている人が多い。それは、本来の漢字表記が分からないからだと思われる。「無鉄砲」を韓国語でも「ムデポ」と発音するが、「無鉄砲」自体の韓国語での音読みは「ムチョルポ」が正しい。このような例は韓国語に他にも多くある。

日本も、最近では外来語のカタカナ表記が増えている。このようなカタカナ外来語は、韓国語、中国語話者にとって、異質感を感じることも多い。外来語すべてを「翻訳語」にするかどうかの議論は別の問題として、伝統の継承と漢字文化圏における情報の共有という面で真剣に考えたほうが良いと思われる。

中国においては、極端な漢字の簡体字化によって、漢字本来の視覚的効果が失ってしまったり、意味の推測ができないのも多くある。

これから、日、韓、中間の漢字体の統一を図り、ネット上での情報の円滑なやりとりができれば、従来のような漢語の意味の共有が可能ではないか。漢字体の統一は、歴史的事情と背景があって容易ではないと思われるが、むしろ機械のワードソフトの共通開発によって解決されると思われる。

また、その一步として、日、中、韓における共通語彙表、あるいは比較語彙表を作る必要があると思われる。

先人達は、漢語を通して歴史、文化を継承するのは勿論、翻訳語によって西欧文明を取り入れ、学問と科学を発展させる原動力とした。漢字、漢語の統一化は日本語と韓国語、中国語の発展は勿論、文化交流の促進にも繋がると思われる。

【参考文献】

1. 荒川清秀 『近代日中学術用語の形成と伝播—地理用語を中心に』 白帝社 1997
2. 荒川清秀 「近代日中語彙交流とロプシャイトの英華辞典」 『中国図書』 1997
3. 荒川清秀 「日本漢語の中国への流入」 『日本語学』 明治書院 1998 V17 39
～46
4. 斎賀秀夫 「日本の漢字はどう定められているか」 『月刊しにか』 大修館書店
1999 V10 23～29
5. 佐藤喜代治編 『漢字と日本語』 明治書院 1989 254～271
6. 飛田良文・宮田和子 「19世紀の英華・華英辞典目録」 『国語論究6近代語の研究』
1997 明治書院
7. 森岡健二 『近代語の成立 明治期語彙編』 1991 明治書院 1993
8. 沈国威 「現代中国語における日本製漢語」 『日本語学』 1993 明治書院
9. 陳力衛 『和語漢語の形成とその展開』 2001 汲古書院